

「大学生海外インターンシップ支援事業」に参加した学生の報告会

大学生海外インターンシップ支援事業として、県内企業の海外事業所でインターンシップを経験した学生9名が11月13日、小岩副知事に成果報告をするため長野県庁を訪問しました。

県庁を訪れたのは、(株)エーシーエ設計のミャンマー事業所に参加した信州大学3年の小山雄聖さんと長野大学3年の中田このみさん、(株)近藤紡績所のベトナム事業所に参加した信州大学3年の小笠原一樹さんと長野県立大学1年の青木菜々恵さん、(株)武井樹脂製作所のタイ事業所に参加した清泉女学院大学2年の鳥居涼香さんと山川佳那子さん、(株)デリカのタイ事業所に参加した長野大学2年の磯田風南さん、NiKKi Fron(株)のタイ事業所に参加した長野大学2年の今野航さん、(株)ユウワのベトナム事業所に参加した長野大学3年の鈴木輝野さんの9名です。



また、受け入れていただいた(株)エーシーエ都市企画の箭内次長、(株)近藤紡績所の木村課長代理、(株)ユウワの井出様にもご同席いただきました。

本事業は、県内高等教育機関の魅力向上及び学生が海外へ目を向け活躍の場を求める機運を醸成してグローバル人材の育成を図るため、産学官で連携して始めた事業で、今年度で4年目となります。今年度は13名(信州大学3名、公立諏訪東京理科大学1名、長野大学4名、清泉女学院大学4名、長野県立大学1名)の学生が、7企業7事業所3カ国で8月～9月にインターンシップを実施しました。

今回報告に訪れた9名の学生がお世話になった6企業以外に、(株)南信精機製作所のベトナム事業所でも学生を受け入れていただきました。

参加した学生は、応募した動機や成長したことなどを持参した資料を基にして副知事に報告しました。

副知事からは「海外インターンシップを経験した事には2つの意味がある。1つは社会人になるために何が必要かを知ること。もう1つは学生や日本人という箱から飛び出すこと。それを自分なりに考えて、アイデンティティを持つ、自分を磨く、ということに努めてほしい。」とのアドバイスがありました。また、グローバル化に対応するためには、日本の文化や歴史を知り、自分の言葉で主張できるようになることも大切だというお話もありました。



最後に、小岩副知事から「将来は、長野県をよくするために力を貸していただけるとありがたい。」と学生に話し、企業の方も一緒に記念撮影をして報告会を終了しました。